

『輝くふるさと愛媛づくり』

1. 本県が直面する課題（待った無しの構造改革）

(1) 2つの改革潮流

地方分権改革の推進（国から地方へ）

地方行政の仕組みを、地方分権型に転換することが不可欠。

第一期分権改革での三位一体改革（H14年～）は極めて不十分。

第二期分権改革においては、国から地方への権限・税財源のさらなる移譲、国と地方との二重行政の解消など、真の分権改革が課題。

行政の民間化（官から民へ）

民間に出来ることは民間に委ねる。

市場経済の基本は「自助」。「自助」を補完し、市場の失敗を是正するのが国、地方自治体（即ち「公助」）。

「自助」と「公助」の隙間を埋める領域が「共助」。

(2) 財政構造改革の推進

H18年度から財政構造改革（～H21年度）に着手。

H19年度から3年間で1,124億円の財源不足と試算。財政再建準用団体への転落の危機的状況が当面継続。

2. 今後の県政運営について

(1) 2つの改革潮流への対応

「国から地方へ」、「官から民へ」の流れを確かなものとするため、組織のスリム化や各種規制等の見直し、『コンパクトな県政』を実現。

「共助」の拡大に向け、「愛と心のネットワーク」の取組みを深め、県民総ぐるみの活動へと発展を目指す、『あったか県政』を推進。

(2) 財政構造改革を踏まえた“選択と集中”

限られた行財政資源を最大限に活用し、県民サービスの低下を最小限に留めるため、施策や事業の一層の“選択と集中”が不可欠。

3. 具体的な取組み

(1) 『コンパクトな県政』実現に向けた取組み

財政構造改革

財政構造改革を不退転の姿勢で推進。一方、大規模災害基金も確保。

知恵とアイデアを絞り、経費節減、ゼロ予算事業や「県民力」を引き出す呼び水の事業に取組む。

県民サービス改革

県民に目線を合わせた行政運営の更なる推進

アウトソーシングの推進 市町への権限移譲の推進

「えひめ夢提案制度」の推進

パートナーシップ改革

NPO 等との協働の促進

県職員ボランティアの拡充

県庁シェイプアップ改革

地方局再編

試験研究機関の見直し

(2) 『あったか県政』推進のための取組み

若年者の雇用確保

雇用の受け皿づくりと若年者の人材育成の両面からの対策が必要。

雇用の受け皿づくりに向けた取組み

企業の求める人材の育成に向けた取組み

農林水産業のてこ入れ（“守り”から“攻め”の農林水産業へ）

本県一次産業は、農林水産物の価格低迷や産地間競争の激化、過疎化・高齢化の進展等により、生産額が大幅に減少。

とりわけ、南予地域が極めて深刻な影響。

一次産業及び農山漁村は、食料の安定的供給や自然環境・県土の保全、伝統文化の継承などの多面的機能を保有。その再生が不可欠。

『伸びるところをとことん伸ばす』観点から、「愛」あるブランドの確立や新販売戦略の構築等に取り組む。

南予地域の活性化

地域格差の是正に向け、“南予地域の活性化”にも最重点で取組み。

基幹産業である農林水産業の振興

昨年度、『南予地域活性化特別対策本部』を設置。

本年度から南予地域広域連携プロジェクト推進事業などにも取組。

今後、「えひめ元気づくりプロジェクト」や「えひめ夢提案制度」、愛媛大学との連携等により、支援体制の一層の拡充強化に努める。

愛と心のネットワークづくり

「愛と心のネットワークづくり」を中心施策として積極的に推進。

県民の助け合い・支え合いの輪を広げるため、側面からサポート。

徐々に県民の間に定着。19年度は77事業を実施予定。

その他の主要な取組み

『伸びるところをとことん伸ばす』施策

『弱っている地域や人をみんなで支える』施策

4. 『輝くふるさと愛媛づくり』に向けて

本来、地域の活力は、そこで学び、働き、暮す住民一人ひとりの魂（こころ）の輝きから生まれるもの。

県民の理解と参画のもと、147万人県民が持つやさしさとパワーを「県民力」として結集。子どもやお年寄りの笑顔があふれ、みんなの魂が光り輝くふるさと愛媛づくりに全力で挑戦したい。

その思いを持って『輝くふるさと愛媛づくり』を提唱。

経済的に大都市に適わずとも、精神面では、愛媛最大の良さである“思いやり”に満ち溢れたふるさとづくりに向け、全身全霊で取組み。